之雲なりとて流を汲て物之城中
前上州と合戦の時伝聞仁田武蔵の妻安倍基
内歴清らび南に村岳屋敷として者娘妻と仁田可
ちとれけり鶯蒼の襖を宣れ此雲遊頭の安達ら
吳国の尼嶽が毒蛇と竭ら又和歌の浦と信新
田が墓庵の前を打されて焼さも見る今てら
僧ちぐきと清士美ましまるなるけら生命化
蛇色として八つの綱をむ仁田とられけり其子
孫連絡して今時新堀村水路遊者河童 古考

七表見方ニ二人計して前上州く新堀まて鐘綱
五くまは山ちりやなる大蛇も出まて
河童ニ而前をとて迎ちとらて出ちに古御所
形の物 豊田の者 高倉御道まて行ぶ魂魄ら行
迎ひ行方へ行うと問ひけるば大鳥池へ行くと
て通られ者ちに大蛇の化あるやとして誠に国
方面の堀を松平越前守殿知行二十五万石
水路遊者まて一日大河の測底ニ仕遊なれしと
なるて家老小栗美作が無石まて家作ら去